

鹿児島県産ケシボウズタケ属 *Tulostoma* の生態

黒江修一

〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部

はじめに

ケシボウズタケ属 *Tulostoma* の大半は、海浜砂地、荒れ地、石灰岩地といったおよそきのこのイメージとは似ても似つかない環境を生息場所としている。現在、わが国では 7-8 種ほどに和名が与えられているが、茨城県から静岡県までの海浜を中心として 10 種以上が観察されている (浅井, 2009)。

筆者は南九州におけるケシボウズタケ属の発生状況を調べている。鹿児島県には本属の発生に適していると思われる海浜砂地が随所にあるが、これまで生態に関する記録がない。そのため本属の発生状況を明らかにするため調査を行った。今回、ケシボウズタケ属の生態に関する新しい知見が得られたので報告する。

材料と方法

2011 年 11 月から 2013 年 3 月にかけて鹿児島県内各地の海浜砂地をランダムに歩いて、ケシボウズタケ属の発生を確認した。主な調査地は、大隅半島 (志布志市, 大崎町, 東串良町, 肝付町, 鹿屋市, 錦江町, 南大隅町, 垂水市など) の 16 か所, 薩摩半島 (長島町, 阿久根市, 薩摩川内市, いちき串木野市, 日置市, 南さつま市, 南九州市, 指宿市, 鹿児島市など) の 22 か所, 計 38 か所である。

発生区域の面積は、発生を確認したケシボウズタケのすぐ横に、1 cm × 1 cm × 50 cm の角材を

刺し込み目印とし (図 1), 最も離れた 2 個体間の直線距離と、それに垂直に交わる最も遠い 2 個体間の直線距離をそれぞれ長辺及び短辺とする四角形とみなして求めた (表 1)。次に、満潮線に最も近い箇所に発生した区域内の個体から、調査日の満潮線までの直線距離を測定した。最後に、子実体の高さ・頭部の径・柄の太さをノギスで測定したのち、数個体を採集して持ち帰り、乾燥標本とした。



図 1. 発生区域の様子 (個体の位置を示すために角材を刺して目印とした)。

調査結果

1. ケシボウズタケ属の発生地

本属の発生が見られたのは、大隅半島の大崎町 (2012 年 11 月) と東串良町 (2012 年 12 月), 薩摩半島の日置市 (2012 年 11 月-12 月) と南さつま市 (2013 年 1 月) のみであった (図 2)。各発生地から採集した胞子を光学顕微鏡で観察した結果、いずれもアバタケシボウズタケ *Tulostoma adhaerens* (図 3) であった。薩摩半島東海岸及び大隅半島西海岸, 鹿児島湾内の海浜砂地では発生が確認できなかった。

Kuroe, S. 2013. The habits of *Tulostoma* in Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 39: 157-159.

✉ SK: Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: kuroe@fish.kagoshima-u.ac.jp).

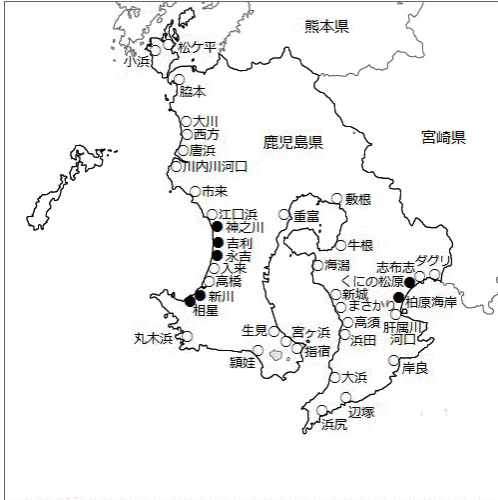


図2. 鹿児島県本土における調査地 (○) と、ケシボウズタケの発生を確認した海浜砂地 (●).



図3. アバタケシボウズタケ.

表1. ケシボウズタケが発生した区域の面積.

	発生地	発生箇所	発生区域 (m)	面積 (m ²)
大隅半島	くのにの松原 (大崎町)	2	8.6 × 2.4	20.6
	柏原海岸 (東串良町)	1	3.0 × 1.5	4.5
薩摩半島	神之川海岸 (日置市)	1	6.7 × 4.4	29.5
	吉利海岸 (日置市)	1	7.2 × 2.2	15.8
	新川海岸 (南さつま市)	1	2.0 × 1.5	3.0
	相星海岸 (南さつま市)	2	3.5 × 1.4	4.9

2. 発生区域の面積

アバタケシボウズタケの発生区域は、各調査地内に 1-2 箇所と少なく、また発生区域の面積も 3.0-29.5 m² と狭かった (表1).

3. 満潮線から最も近い発生地までの直線距離

調査当日の満潮線に最も近くで発生した個体

表2. 満潮線から最も近い発生個体までの距離.

	発生地	距離 (m)
大隅半島	くのにの松原 (大崎町)	50.6
	柏原海岸 (東串良町)	17.8
薩摩半島	神之川海岸 (日置市)	18.4
	吉利海岸 (日置市)	41.8
	新川海岸 (南さつま市)	18.5
	相星海岸 (南さつま市)	48.7

表3. ケシボウズタケ各部の大きさ.

	発生地	子実体の全長 (mm)	頭部の径 (mm)	柄の太さ (mm)
大隅半島	くのにの松原 (大崎町)	40.0	13.0	3.5
		47.0	14.0	3.5
		53.0	12.0	3.8
		69.7	19.6	3.6
	柏原海岸 (東串良町)	47.0	17.0	6.0
		47.0	14.0	4.0
薩摩半島	神之川海岸 (いちき串木野市)	32.0	10.0	4.0
		40.6	15.1	3.3
		40.7	10.5	2.9
	新川海岸 (南さつま市)	39.7	10.0	2.7
		51.3	13.9	4.3
		30.9	11.3	3.4
		35.4	10.7	3.1
	相星海岸 (南さつま市)	21.7	10.1	3.5
		40.4	12.1	2.0
		45.5	12.0	1.5
		27.8	11.6	3.5
		42.7	11.0	2.0

と満潮線までの直線距離を測定した。満潮線までの距離が最も近かったのは、東串良町柏原海岸で17.8 mであった。最も遠かったのは大崎町くいの松原で50.6 mであった(表2)。

4. 子実体の高さ・頭部の径・柄の太さ

それぞれの発生地で、アバタケシボウズタケが発生した区域からランダムに3-4個体を選び、子実体の高さ、頭部の径、柄の太さをノギスで測定した。子実体の全長は21.7-70.0 mm、頭部の径は10.0-19.7 mm、柄の太さは1.5-6.7 mmであった。各地域による顕著な差は見られなかった(表3)。

■ 考察

今回の調査により、鹿児島県本土の2市2町

の海浜砂地にアバタケシボウズタケが発生していることを確認した。しかし、発生地は一部市町の海浜砂地に限られ、しかも発生区域はわずかな面積しかないことが分かった。また、大隅半島柏原海岸では発生箇所の約1 m横を自動車が行き来しており、今後の発生が危惧される。

自然が残っていると思われた鹿児島県の海浜砂地のいくつかは、海水浴場として整備され利用者には便利になった。しかし、ケシボウズタケ属が発生する自然豊かな海浜砂地ではなくなった。海浜砂地の豊かさを示す指標の一つとして、本属の発生状況調査は今後も続ける必要がある。

■ 引用文献

浅井郁夫, 2009. 海浜砂地生のきのこ — ケシボウズタケの仲間を中心として — (上). 菌蕈, 55: 26-33.